



福浦小 5、6年生の皆さん



1、2年生の発表の様子

あ
ん
な
い
と
お
い
さ
い
ん
な
い
と

写真 5 写真 6

25 防災マップで2年連続の快挙

福浦小学校 5、6年生 10名が作成した『高齢者避難時サポートマップ』が、「第10回小学生のぼうさい探検隊マップコンクール」(日本損害保険協会など主催、応募作品 2,191点)で最高賞の文部科学大臣賞に選ばれました。同校は、昨年も『高台へGO! 避難経路マップ』で同賞を受賞しており、2年連続の快挙達成となりました。また、1、2年生 2名による作品も佳作に選ばれました。

2月10日には、福浦小学校で賞状伝達式や防災マップづくりに関する発表会があり、保護者や地域の方々が集まりました。

子どもたちの発表を受けた保護者からは、「マップづくりが始まったことをきっかけに緊急時持出袋を備えるようになり、中身も充実させる必要があると感じるようになった」、「実際に子どもたちと避難路を歩いてみて、急に津波が来たときにその道を登れるのか疑問に感じた」などといった意見がありました。

マップづくりの取組が、地域住民の防災意識の高揚につながっていることを改めて感じた子どもたちは、その成果に充実した表情を見せていました。

本日!海日和!! vol.40 「電気ビリビリ」



発電して狩りをするシビレエイ

このコラムを書くときには、季節の行事や記念日を調べるのだが、家に掛けてあるカレンダーに、電気記念日があるのを見つけた。明治20年3月25日、日本に家庭用の配電が始まったことを記念して制定されたようだ。

我々が電気を使うようになって、たかだが130年余りだが、はるか昔から電気を利用している魚がいる。その名もシビレエイ。胸びれにある発電器官で電気を起こし、砂の中に隠れている小魚やエビなどを感電させて捕まえるそうだ。見つけたときには、どれほどの電気ショックがあるのか試してみたくなるが、水中で感電したら...と考え直してしまう。砂に潜っている姿を瀬ノ浜でよく見かけていたのだが、環境が変化したためか、最近は見かけなくなってしまった。

自然エネルギーが見直されている現在、シビレエイにヒントを得た発電がなんとかできないものか...などと考えてしまうダイバーの浅知恵である。

(撮影地:瀬ノ浜)

愛南サンゴを守る会 西尾知照

写真 4

7 おしゃれレシピを学ぼう

松山市を拠点に世界各地で活躍されている愛南町出身の料理研究家、門田智子先生を講師に招き、4回目となる「うみらいくキッチン」が行われました。

今回は「おもてなし料理」がテーマで、参加者は、門田先生に料理をおしゃれに盛り付けるコツや食事の際のマナーなどを教わりながら、ブリのあらめ揚げ、鯛のおから蒸し、カキのお宝寒天寄せの3品を楽しく調理しました。

LOWN TOWN



写真 1
1/ 17 おいしく健康づくり

食を通して健康づくりを推進しようと、町食生活改善推進協議会（尾崎イトミ会長）主催による「あいなん食改味まつり」が、城の辺学習館で開催されました。

会場には、三色押し寿司やブリのオレンジ焼き、ふろふき大根など主食、主菜、副菜、また、汁物やデザートなど数多くの料理が用意され、100名を超す来場者が料理を楽しく味わいました。

写真 2
1/ 26 すべて ころんで 柏小スキー教室

柏小学校と内海公民館共催によるスキー教室がソルファオダスキーゲレンデ（内子町）で行われ、児童46名と教職員や保護者など総勢約79名が参加しました。

最初は緊張した表情の子どもたちでしたが、徐々に滑り方のコツをつかみ、何度も転びながらもとても楽しそうにスキーを満喫しました。

写真 3
2/ 5 本物の芸術に触れる

次代の文化の担い手となる子どもたちに、優れた舞台芸術を鑑賞する機会を提供しようと、一本松交流促進センターで、人間国宝の山本東次郎氏を擁する大蔵流狂言 山本会による狂言公演が行われました。公演では「柿山伏」と「附子」が演じられ、鑑賞した一本松小・中学校、篠山小・中学校、僧都小学校の児童・生徒や保護者が一流の文化芸術を楽しみました。